

1 級第 7 回 学科試験問題の傾向・レベル分析と今後の対策

【総評】 (第6回との比較)

- \* キャリアの理論やカウンセリングの理論に関する問題の難易度が上がった。1 級受検者も普段はあまり学習しない理論家の問題や理論の細かい内容を問う問題が増加した。
- \* 調査研究結果や統計に基づく詳細な知識を問う問題が出題されている。
- \* このようなことから、第6回と比較して、合格率が下がることが予想される。この傾向が続き、以前よりも学科試験対策に時間を取られる可能性もあるので、すでに学科試験の一部合格をしている方は、その有効期間内に実技試験合格を勝ち取っていただきたい。
- \* 当会が実施した模擬試験の問題や選択肢が「ズバリの中」した問題が問10、問24、問45、問46などにみられる。

	分析	対象問題	対策
A	各科目・範囲ごとの出題数に、変化はみられない		①②③④参照
B	「日本語」やその「語感」で正答を導ける問題が多い。	問2、問3、 問14、問18、問42、 問43、問50	③④⑤参照
C	過去問と同じ内容の出題がある	問36、問39、問43	③④⑤参照
D	調査研究結果や職業能力開発基本計画、ストレスチェックなど、基本的な情報に関する出題がなされている。	問1、問3、問16、問 19	②③④参照
E	細かい知識で正答を導き出す問題がある	問16、問32、問35、 問37、問48	①②③参照
F	問題のレベルは全体的には前回と同様であるが、キャリアやカウンセリングの理論がレアな理論や細かい理論が出題されて前回よりも難しくなっている	問6、問9、問10、問 30、問31、問33、	②③参照

【科目・範囲ごとの出題数 (( ) は第5回からの増減)、難易度】

科目	範囲	出題数 ( )	難易度
1 ①	社会・経済的な動向とキャリア形成支援の必要性の認識	1 (±0)	難が1問
1 ②	キャリアコンサルティングの役割の理解	2 (±0)	中と易が各1問
1 ③	キャリアコンサルティングを担う者の活動範囲と義務	2 (+1)	易が2問
2 ①	キャリアに関連する理論の理解	3 (±0)	難、中、易が各1問
2 ②	カウンセリングに関連する理論の理解	3 (±0)	難が2問、易が1問
2 ③	自己理解に関する理解	2 (±0)	中と易が各1問
2 ④	仕事・職業に関する理解	2 (±0)	中と易が各1問
2 ⑤	職業能力開発に関する理解	2 (±0)	中と易が各1問
2 ⑥	雇用管理 (人事管理・労務管理) に関する理解	3 (±0)	難、中、易が各1問
2 ⑦	労働市場に関する理解	2 (±0)	中が2問

⑧	2	労働法規、社会保障制度に関する理解	2 (±0)	中が2問
⑨	2	学校教育制度、キャリア教育に関する理解	1 (±0)	中が1問
⑩	2	メンタルヘルスに関する理解	3 (±0)	中が2問、易が1問
⑪	2	ライフステージ、発達課題に関する理解	2 (±0)	中が2問
⑫	2	転機に関する理解	1 (±0)	難が1問
⑬	2	相談者の類型的・個人的特性に関する理解	1 (±0)	中が1問
①	3	基本的スキル	2 (±0)	難と中が各1問
②	3	相談実施過程において必要なスキル	2 (±0)	易が2問
①	4	キャリア形成、キャリアコンサルティングに関する教育、普及活動	2 (±0)	中と易が各1問
②	4	環境への働きかけの認識と実践	2 (±0)	易が2問
③	4	ネットワークの認識と実践	1 (±0)	易が1問
④	4	自己研鑽・スーパービジョン	1 (±0)	易が1問
⑤	4	キャリア形成支援者としての姿勢	1 (±0)	易が1問
	5	グループアプローチ (ジョハリの窓の問題もここに分類)	2 (±0)	易が2問
	6	教育指導	2 (±0)	中と易が各1問
	7	事例指導	3 (±0)	易が3問

#### 【今後の勉強への指針】

対 策	
①	合格ライン (70 点) を確実にクリアするために、「毎回出題される」「頻出の基本的・基礎的な内容」を確実に理解し、得点する
②	「今回初めて出題された理論家」や「統計・調査結果の細かい内容」にとらわれるよりも、「1 級キャリアコンサルティング技能士」が実務を行う上で必要な、基本的かつ基礎的知識を中心に習得する
③	「過去問」や「1 級青本&赤本 (赤本部分)」、「別冊キャリアの赤本【第二版】」を活用し、必ず出題される「頻出分野」や「得点源となる科目・範囲・細目」の内容を把握して確実に得点できるようにしておく
④	学科試験対策用テキストである「キャリアの青本Ⅱ」と「1 級青本&赤本 (青本部分)」を活用し、基本的・基礎的な知識の正確かつ「確実な定着」を得るとともに、「キャリアの青本Ⅱプラス (2017 年版)」などで、最新の情報を入手しておく
⑤	試験に慣れて、「日本語の語感による正答 (例：必要がない、必ず等) 発見」のテクニックや時間配分の技術、ケアレスミスをしらない方法を体得する 例：「最適な」「だけ」「かならず」「のみ」・等 強調する語彙や決めつける語彙は要注意！

以上